



クボタ通信

第134期中間

2023.1.1-2023.6.30



特集記事 / P.5~6

日本を代表する米の産地である新潟県。春には水面が輝き、夏には緑のじゅうたん、秋には稲穂のなびく美しい風景が見られます。食料の安定生産を担うこの豊かな大地、そして「瑞穂の国」と言われる日本の原風景を未来に繋げていくために、当社ができることは？





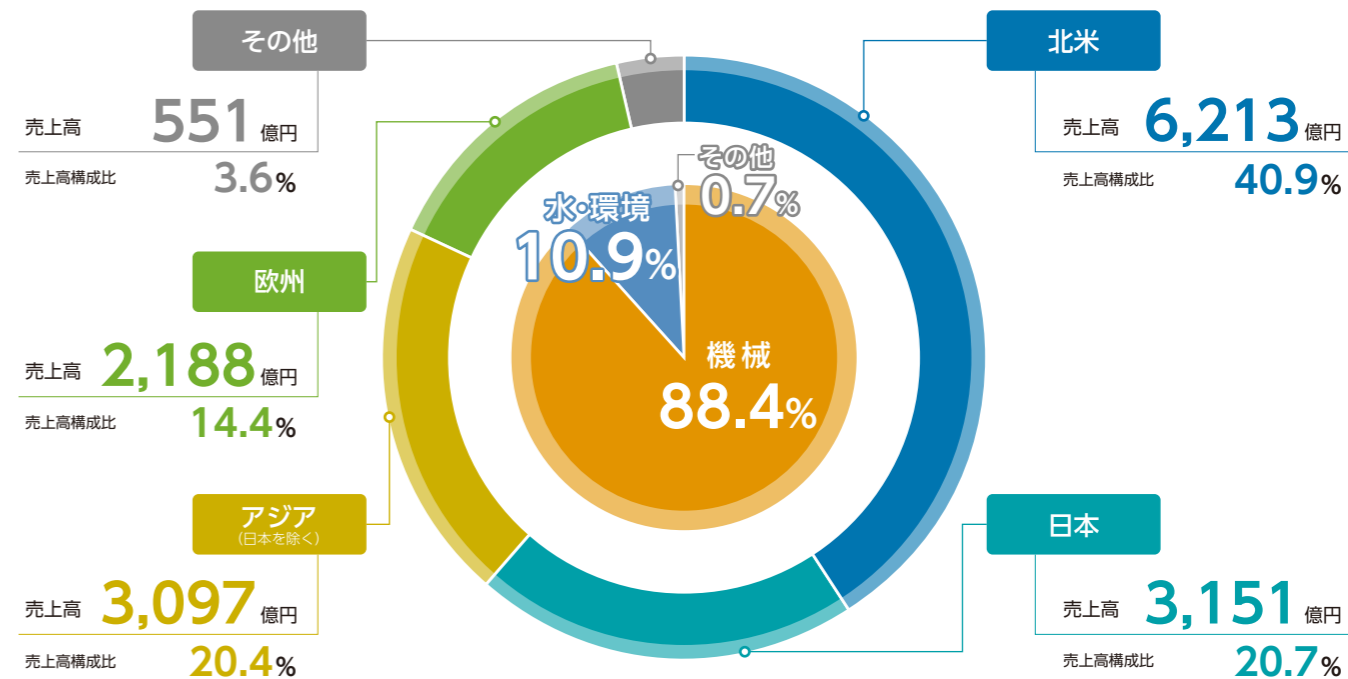
事業成長と社会課題の解決の両立に挑戦し続け “命を支えるプラットフォーマー”をめざします

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
クボタ通信(第134期中間)をお届けするに当たり、ご挨拶を申し上げます。
当第2四半期累計(2023年1月1日~2023年6月30日)の業績につきましては、下記のとおりとなりました。
なお、第134期中間配当につきましては、1株当たり24円とさせていただきます。
株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社クボタ 代表取締役社長
北尾 裕一

事業の概況

売上高 **15,200**億円
第134期第2四半期累計

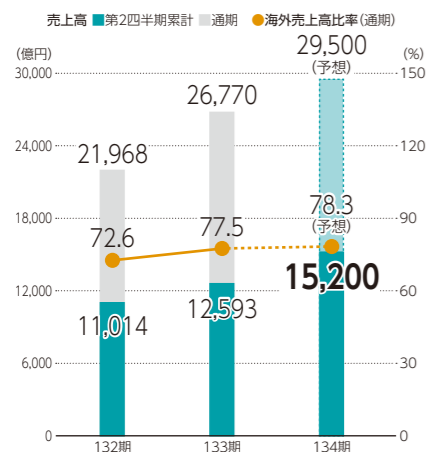


第134期第2四半期連結業績

売上高

15,200億円
(前年同期比 +20.7%)

売上高・海外売上高比率

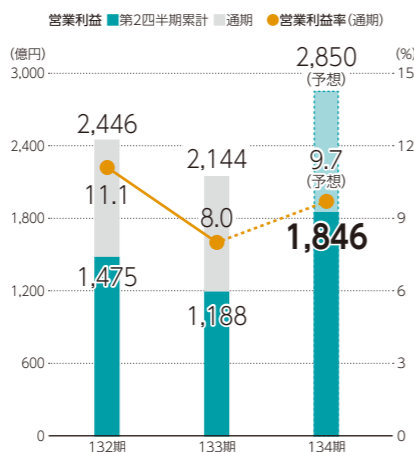


(注) 第134期第1四半期よりIFRS第17号「保険契約」を適用しているほか、第133期においてリース債権に係る貸倒引当金の測定方法を変更しています。また、2022年4月11日に取得したエスコーツLtd.(現エスコーツポタ Ltd.)に係る暫定的な会計処理が第134期第1四半期において確定しています。第133期に係る経営指標等は、これらの影響を遡り修正しています。

営業利益

1,846億円
(前年同期比 +55.4%)

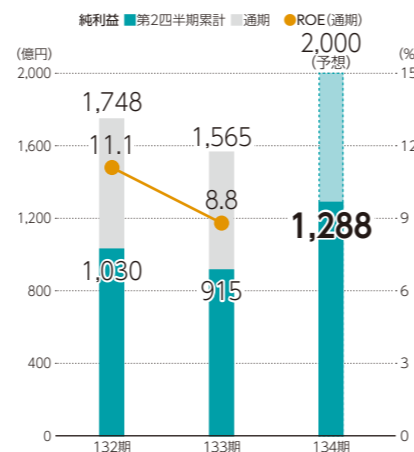
営業利益・営業利益率



親会社の所有者に帰属する 四半期利益

1,288億円
(前年同期比 +40.7%)

親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益・ROE



第134期通期連結業績予想

売上高 **29,500**億円 営業利益 **2,850**億円 親会社の所有者に帰属する当期利益 **2,000**億円

1株当たり配当金

【当期の実績】

第134期 (中間)

1株当たり **24**円

支払開始日: 2023年9月1日

※ 期末配当金につきましては、別途ご案内します。

(ご参考: 前期の実績)

第133期

1株当たり **44**円

〔 中間 22円
期末 22円 〕

総還元性向

第133期 **46.3%**

当社は中期経営計画2025において総還元性向40%以上を目標とし、50%をめざすこととしています。

機 械

農業機械及び農業関連商品、エンジン、建設機械

売上高 **13,442**億円 前年同期比 **+22.8%**

国内: 高馬力帯の農業機械の販売が増加し、増収。
北米: トラクタはディーラー在庫充足のための出荷が進み増加、建設機械は住宅建設のバックログの消化やインフラ工事需要を背景に好調に推移。
欧州: トラクタは前年の在庫不足による売り逃しの解消により増加、建機及びエンジンは公共工事需要に支えられ増加。

アジア: タイでは干ばつ懸念による買い控えにより農業機械が減少。インドは前第2四半期からのエスコーツポタLtd.連結子会社化の影響に加えて、市場も今春の豊作により好調。

セグメント利益 **1,984**億円 前年同期比 **+72.4%**

金利上昇によるインセンティブコストの増加や原材料価格の上昇、インフレによる諸経費の増加などの減益要因を値上げ効果や為替の改善、増販などで補い増益。

水・環境

パイプシステム事業、産業機材事業、環境事業

売上高 **1,656**億円 前年同期比 **+8.5%**

国内: 合成管が堅調に推移したほか、環境事業の売上も増加し、増収。
海外: 反応管が海外プラント新設需要に支えられ増加。

セグメント利益 **99**億円 前年同期比 **+2.1%**

■ 原材料価格の上昇を値上げ効果で補い前年比ほぼ横ばい。

その他

各種サービス事業等

売上高 **102**億円 前年同期比 **-11.8%**

セグメント利益 **11**億円 前年同期比 **-37.8%**

当期における、当社の取り組みをご紹介します。それぞれのトピックスの詳細につきましては、各URLまたは2次元コードよりご覧ください。

機械

世界初！無人自動運転のコンバインを発売

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2023/newproduct-20230614.html>



当社は、人手不足や作業効率化など、担い手農家が抱える経営課題を解決するため、世界で初めて(※)人が搭乗することなく自動運転で米や麦の収穫作業が行える「アグリロボコンバインDRH1200A-A」を発売します。当製品の発売により、当社の主要3機種（トラクタ、田植機、コンバイン）のすべてに無人自動運転仕様がラインアップされることになります。
※2023年6月14日現在、クボタ調べ



無人自動運転による収穫作業

機械

CO₂を排出しない、産業用水素エンジンを国内初公開

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2022/management-20220928.html>



当社は、エンジンを通じたカーボンニュートラルに向けた取り組みとして、産業機械向けエンジンの低燃費化に加え、水素、バイオ燃料、合成燃料等、脱炭素燃料の適用研究を進めています。
2023年5月、産業用水素専焼エンジンを国内で初めて公開しました。早期の市場投入、実用化をめざしてまいります。



国内初公開された産業用水素エンジン

水・環境

神奈川県三浦市で、コンセッション方式による効率的な下水道事業を運営

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2023/management-20230111.html>



神奈川県三浦市と当社は、公共下水道運営事業に関する実施契約を締結しました。本契約は施設の所有権を自治体が有したまま施設の運営権を民間事業者へ設定するコンセッション方式で、ひとつの処理区において、管路を含めた公共下水道施設全ての施設運転や維持管理、更新を行う国内初の事例です。
当社は、施設の老朽化、職員の不足、人口減少による下水道使用料収入の減少といった課題を抱える日本各地の下水道事業において、今後も長期間にわたる安定的で効率的な運営の実現に寄与してまいります。

水・環境

電池材料市場に参入

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2023/management-20230425.html>



当社は、リチウムイオン二次電池の負極材料として使用するチタンニオブ複合酸化物の量産を2024年末に開始し、電池材料市場に参入します。自動車をはじめとする電動化の流れに伴いリチウムイオン二次電池の性能向上への期待が高まる中で、次世代電池材料の生産を通じて、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。



チタンニオブ複合酸化物(右)と、電池のイメージ

ラグビーチーム「クボタスピアーズ船橋・東京ベイ」初優勝！

詳細はこちら <https://www.kubota-spears.com/>



当社は、ジャパンラグビーリーグワンに所属するラグビーチーム「クボタスピアーズ船橋・東京ベイ」を運営しています。今年度、NTTリーグワン2022-23において、1978年のチーム創設以来、悲願の初優勝を果たしました。今シーズンも、熱いご声援をいただきますようよろしくお願いいたします。(試合日程など、詳細はウェブサイトへ)



株式事務手続きのご案内

お手続きをご利用される場合は、お取引のある証券会社、または下記の株主名簿管理人である三井住友信託銀行(株)までお問合せください。

1 保有株式が100株未満(単元未満株式)の株主様へ

単元未満株式のみを保有の株主様は、保有株式数を100株(単元株式)まで買い増していただくことで、次のようなことが可能になります。**これを機会に、買い増しをご検討ください！**

<p>Point! 株主総会へのご出席※1</p> <p>株主総会にご出席いただき、当日の質疑応答などを直接お聞きいただけます。</p>	<p>Point! 総会ライブ配信のご視聴※1</p> <p>遠隔などで株主総会に直接ご出席いただけても、インターネットでライブ配信をご覧いただけます。</p>	<p>Point! 株主様限定イベントご参加※2,3</p> <p>工場・当社関連施設のご見学、ラグビー観戦へのご招待などの特典を受けられます。</p>
---	---	---

買い増しのイメージ

60株 + 40株 = 100株 「単元株式」

上記の例の場合
60株を保有の場合、40株を買い増して、100株にできます。※4

【ワイナリー見学会の様子】
(2022年10月、岩手県花巻市にて)



- ※1 株主総会の基準日時点で当社株式を100株以上保有いただいている場合に限り。
- ※2 一定の期間以上、当社株式を保有いただいている株主に限り。
- ※3 ご応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。
- ※4 買い増しには、所定の手数料がかかる場合があります。

2 配当金のお受け取りは、便利な口座振込をご活用ください。

配当金のお受け取り方法は以下の3つあり、下記の2または3をお選びいただくことで、お支払開始日当日のお受け取りが可能になります。

また、お支払開始日から満3年を経過した配当金は、お受け取りができなくなりますので、お受け取り忘れのない口座振込を、ぜひご活用ください。

<p>1 郵便局等での受け取り</p> <p>「配当金領収証」を持参し、郵便局等で受け取る方法</p>	<p>2 証券口座での受け取り</p> <p>各証券会社の証券口座で受け取る方法</p>	<p>3 銀行口座等での受け取り</p> <p>ご指定の金融機関口座で受け取る方法 (個別銘柄ごとのご指定も可能です)</p>
--	---	--

3 当社株主総会資料の書面郵送をご希望の場合は、お手続きが必要です。

法改正により株主総会資料の電子提供制度が開始されたため、2023年より上場会社の株主総会資料は原則として電子化されました。新たに書面郵送でのお受け取りをご希望の株主様は、**2023年12月31日**までにお取引のある証券会社または株主名簿管理人である三井住友信託銀行(株)を通じて、「書面交付請求」のお手続きをしていただく必要があります。

三井住友信託銀行(株)
お問合せ先

☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・休日を除く)
【郵便物送付先】
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行(株) 証券代行部

日本の農業は、担い手の高齢化や後継者不足、気候変動による収量や品質への影響など、様々な課題を抱えている一方、そのポテンシャルは高く、従来の農業の在り方とは異なる新たな動きが見え始めています。

農業を「持続可能」なものとするため、クボタ及び(株)新潟クボタと新潟県は、2022年4月に農林水産省の「みどりの食料システム戦略」推進に向けたスマート農業の普及や新潟米の輸出促進などを目的に、連携協定を締結しました。

以下では、新しい農業のカタチを実現している農家の方々の取り組みや未来の農業を担う若者たちの想いについてご紹介いたします。

クボタ及び(株)新潟クボタと新潟県の連携協定の詳細はこちら

<https://www.kubota.co.jp/news/2022/management-20220408.html>



スマート農業の推進

クボタグループは、「農機自動化による超省力化」や、KSAS(※)を通じた「データ活用による精密化」などスマート農業の実現に向け様々な製品、サービスを提供しています。

クボタが進める「スマート農業」の詳細はこちら

<https://www.kubota.co.jp/innovation/smartagri/index.html>



【KSASにより独自のPDCAサイクルを実現】

作業を担当する従業員4名全員が30代の農事組合法人サークル柴橋の柳沢さんは、「スマート農業こそベテラン農家との技術力、経験の差を縮めることができると考え、親世代の農業から変革を続けてきました。ドローンや直進アシスト機能付き田植機などを早い段階から導入し、農業未経験者や経験の浅い者でもすぐに作業できるようにしました。今ではベテラン農家以上の精度を実現できています」と誇らしげな様子。土壌や気候の違いによって農業には画一的な見本や正解がありませんが、KSASに蓄積された過去の作業や肥培管理などのデータを分析し翌年の作業に活かすことで、広大な圃場をより効率的に管理することができるようになったと言います。

「私が目標としているのは、格好いい農業です。将来、子供たちが選ぶ就きたい職業に農業がランクインしてほしいですね。何より、娘に「格好いい」と言われたいですから」と爽やかな笑顔を見せてくれました。

【誰でも簡単に農業ができる時代へ】

農事組合法人アドバンファームしばたを経営する本間さんは、地域農業の受け皿として、頼まれた圃場は断らないをモットーとしています。「頼ってくれる人がいるなら、全力で応えたい。耕作放棄地が多くなると、周辺圃場にも害虫などの影響が出るだけでなく美しい田園風景も守れなくなりますから」と語ります。

「モンゴル出身の留学生を採用しましたが、KSASを導入したことで、経験が浅い人や日本語が不慣れな人でもスマホを見れば、自分の農地がどこで、今自分がどこに居るかが簡単に把握できます。最近では、センシングドローンを活用したKSASでの生育マップの作成と、ドローンによる可変施肥にも挑戦しており、会社の戦力となってくれています」とのこと。

モンゴル出身のキシゲさんは、「モンゴルでは農業は珍しく、従事している人はほとんどいません。日本の技術はとても進んでいて、特にドローンを操縦することが楽しいです。経験を積んで、日本の農業をモンゴルにも広めていきたい」と笑顔で答えてくれました。

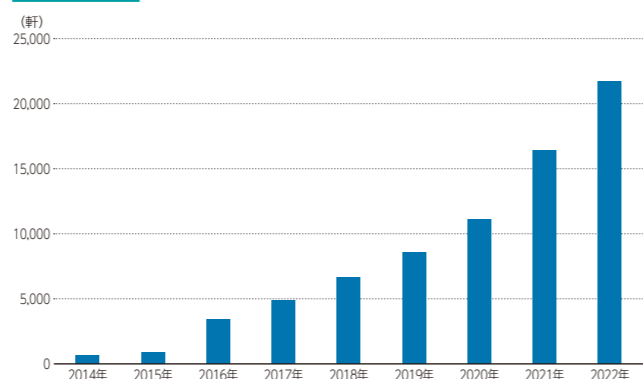


キシゲさんとKSASでのリモートセンシングを検討するクボタの渡辺さん(右)

※KSAS (Kubota Smart Agri System)

KSASは、クボタのトラクタ・田植機・コンバインとICTを融合させたクラウドが構成する営農支援サービスです。スマートフォン/PCなどの端末を使い、対応農機と連携したデータを収集・活用することで、農業経営を見える化し、作業効率の改善、施肥量などのコストの低減、ならびに安心安全な良食味米の生産を可能にします。これまでの日本農業にはなかった“根拠に基づく”ソリューションとして既に力を発揮し、期待を集めています。

KSAS会員数



輸出の促進

クボタの輸出米事業は2012年よりスタートしました。訪日外国人の増加や外食・小売事業者の海外進出による日本食文化の普及により、特に東南アジアを中心に日本産食品の需要が拡大しており、当社は香港、シンガポール、モンゴルにおける玄米輸出・現地精米による日本産米の販路拡大に取り組んでいます。



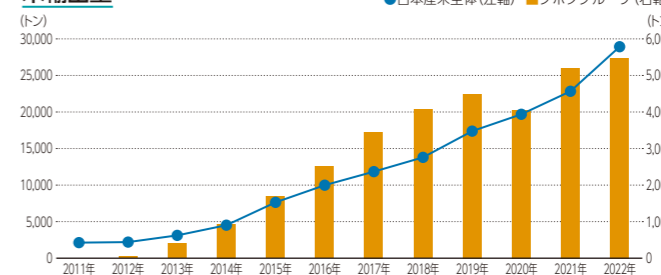
親交を深める花角新潟県知事(左)とWongさん(右)

【世界に広がる日本産米】

2023年7月、シンガポールで「スープレストラ」を経営しているWongさんが新潟県を訪問し、日本の農業を視察しました。「シンガポールは多民族国家であり、多様な料理が求められます。日本産米は品質が良く、お客様からは、味が滑らかでおいしいと好評をいただいています。クボタさんを通じて、日本を代表する米どころである新潟県とは親交を深めてきましたが、高品質な日本食料は農家の方々の豊富な経験と知識によるものであることを改めて実感しました。シンガポールの食料自給率は10%未満で、作物がどのように作られているのかわからない人がほとんどです。食材を作ることの難しさ、農業を支えている人々の素晴らしさを自国でも伝えていきたいです」と日本の農業に感銘を受けた様子でした。今回、お米以外にも枝豆・スイカ・とうもろこしなどを試食し、シンガポールへの輸入も検討したいと語ってくれました。

米輸出事業を推進しているクボタの住中さんは、「海外では日本産米の需要が拡大していますが、一般に流通する外国産米とはコスト差があります。クボタグループの強みを活かし、最終顧客と生産地と連携した取り組みを推進していくことでさらなる日本農業の発展に貢献していきます」と力強く語ります。

米輸出量



のが現状です。それらを引き受けてくれる(株)新潟農商(株)新潟クボタの子会社)さんの取り組みは必要です。将来、私も地元に戻って農家と海外のお客様とを繋ぐような仕事がしたいです」とキラキラした表情で語ってくれました。



持続可能な農業の実現に向けて

持続可能な農業を実現するためには、日本の農業を次の世代へと繋げていかなければなりません。クボタはスマート農業を促進し、環境に優しい農業の普及に努めるとともに、若い世代への教育やインフラ整備などにも積極的に取り組んでいます。

【変わりつつある若者の意識】

今や実家が農家でなくとも首都圏などから、農業を学びにくる若者たちも居ます。新潟県農業大学の生徒の三井さんは「農業は環境と密接に関わりあっていて、例えば気候変動などで干ばつなどが起きると、収量が減ってしまうため、農業が率先して、気候変動を抑えるための取り組みをしていかなければいけないと感じています。クボタさんには、温室効果ガスを抑える農業機械の電動化や農業の脱炭素化に対する取り組みを期待しています」と当社への期待について語ってくれました。



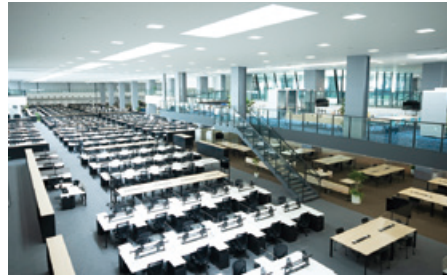
肥料を撒き終えた場所を記憶し、自動で戻っていくドローンを見守る学生たち

【新潟県から日本の農業を変えていく】

(株)新潟クボタでは、ドローンの操縦や導入の研修、自動運転をはじめとするリモートセンシングの環境整備をサポートするため、RTK基地局の設置も進めています。基地の設置によりGPSから受信したデータをより正確に農機やドローンに伝えることが可能となり、スマート農業のさらなる高度化が実現できています。

また、実証実験場である(株)NKファーム村上では、自動運転の省力化や、より温室効果ガスを低減する栽培方法などの実験に取り組んでいます。今後さらなるスマート農業による大規模農業の実現や持続可能な農業に対する取り組みを推進していきます。

今、農業に新しいイノベーションが起きています。そのスピードは年々加速しており、全国各地に広がりを見せています。農業は斜陽産業？それは間違った認識です。世界の人口は増え続け、今後、食料の需要はますます高くなります。また、米に限らず日本の農産物は世界中で評価が高く、農業は、今後自動車や機械などと同様、日本を代表する輸出産業になるポテンシャルを秘めています。クボタグループは、農家の皆様に「On Your Side」の精神で寄り添い、農業の発展に貢献し、新しいカタチの農業実現に向けて様々なソリューションを提供していきます。



株主様向け イベントの ご案内

今回は、研究開発の新拠点「グローバル技術研究所」の見学会を開催します！

当社は、事業のグローバル化や事業領域の拡大に伴い、各地域の状況やニーズに合った製品の開発を強化するため、タイ、フランス、アメリカに研究開発拠点を開設するなどグローバルで研究開発体制の構築を進めています。

当研究所は、各地域の研究開発拠点の連携強化のためのハブの役割に加え、さらなる事業拡大に向けた製品開発や先端技術開発の強化を目的として新設しました。最先端の研究開発の現場の一部をご覧いただけますので、この機会にぜひご応募ください。

日程 2023年
10月26日(木)または27日(金)

場所 大阪府堺市

応募期限 2023年 9月30日(土)
23時59分申し込み分まで

※ご応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

※やむを得ない事情により、イベントの日時・場所の変更、または中止とさせていただく場合があります。その際は当社ウェブサイト等でお知らせします。

下記のURLより見学会の詳細、および応募要項をご確認のうえ、ご応募ください。

ご応募はこちら <https://www.kubota.co.jp/ir/individual/tour/23-03/index.html>

※はがき・電話等では受付いたしかねますので、ご了承ください。



スマートフォンでも
ご応募いただけます



当社は、様々なソーシャルメディアを通じて積極的な情報発信をしています。クボタ通信、ウェブサイト等とあわせ、こちらもぜひご覧ください。なお、当社のソーシャルメディアポリシーは以下からご覧いただけます。

<https://www.kubota.co.jp/socialmedia.html>



YouTube

<https://www.youtube.com/user/TheKubotachannel>



Facebook

<https://www.facebook.com/KUBOTACorporation/>



LinkedIn

<https://www.linkedin.com/company/kubota/>

